

NETWORK

ねつとわあく

特集

生き方のカタチ

●表紙イラスト/川口智子

一人で生きる 二人で生きる みんなで生きる

座談会 他者との共生を男女共同参画の視点から考えるために



男と女の共生
なぜ晩婚化なのか

夫婦同姓の是非
それぞれの微妙な心理

少子化と家族
育てにくいのは
確か？

ニートという生き方
悪者扱いは
したくない？

そして他者との共生
わかりあえる喜び

次世代へのメッセージ
社会をみつめ共生の知恵を



2005.10.1.
vol.47

生き方のカタチ

★座談会／他者との共生を 男女共同参画の視点から考えるために★

一人で生きる 一人で生きる みんなで生きる



二人で生きていても
みんなと生きていても
どこかで

一人で生きています

一人で生きていても
どこかで

誰かと生きている
みんなと生きている

「生き方のカタチ」は

人それぞれ

そんななかで

自分らしく生きることについて
8人の方々に話し合っていたいただきました

あなたの「生き方のカタチ」は

今 どうなっていますか？

■出席者

石田 泰崇

20代・情報システム会社勤務

市川 沙央梨

20代・情報通信会社勤務

桂 麻由美

30代・園芸肥料会社勤務

坂本 美江

30代・社会保険労務士・結婚歴3年

鈴木 俊久

30代・地方公務員・結婚歴7年

関谷 曠

70代・元銀行員・結婚歴44年

田中 雅子

40代・公的機関勤務・結婚歴13年

福島 清志

20代・生命保険会社勤務



★さて、まずは、結婚しない若者が増えているのがら。

●A 結婚する気がないんじゃないでしょうか。要するにパラサイト。身の回りのことは母親がやってくれるので、不自由なく生活できるし、遊びにも一人で行ける。人として自立しようとしていないのでは。

●B 女性も同じです。いま、結婚を考える時期は、ちょうど仕事のチャンスが多く与えられる年代です。まずは、「自分の大切にしている」とをやり、それが落ち着いたら結



●H 私は姓を変えたくないのです。結婚はしないと思います。自分の姓に愛着があるんです。それは、制度としての結婚にとらわれたくないというだけで、パートナーを持ちたくないというわけではありません。相手が姓を変えてくれれば籍を入れてもいいかなと思います。

●G 結婚するつもりはありますが、予定がないだけです。かつては24歳

男と女の共生・・・なぜ晩婚化なのか

婚を考える」という話もよく聞きます。

●C 同世代の友人に「結婚はしたくない」と言っている女性がいます。自分の場合はいすれしたいと思えます。仕事や趣味の場での男性との出会いは多いほうですが、まだ、パートナーとしての出会いはありません。今の時代、女性は社会的に居場所が多く、あせらなくてもいい時代になってきています。「女はこうあるべき、男はこうしなくてはいけない」という考えはなくなってきましたね。

●D 離婚経験のある人で、「自分は結婚に向かない」と言う人もいます。自分のライフスタイルが結婚することによって崩れ、苦痛のほうが増えてしまうと言う人は、大勢いますね。

●B 確かに男性のなかには「妻子を養っていく自信がない。自分のことで、いっばいだ」と言う人もいますね。

●A 私の場合は、妻子を養うという強い思いはなく、まあなんとかなるだろうと思っています。専業主婦になりたいという妻の希望もある

ったので、それならそれでいいからにしか考えていませんでした。

●E 私たちの世代は、妻子を養うという通念を当然のように受け入れていましたね。

●F 私の世代では、半々かな。私にも養ってもらおうという感覚はなかったし、夫にも養ってやるという感覚はないと思います。

●G 私の場合は、男ならちゃんと稼がないといけないし、できれば妻も食べさせてあげたい。そこはちゃんとすべきだと思っています。

夫婦同姓の是非・・・それぞれの微妙な心理

くらいで結婚するつもりでした(笑)。実際、一人身のほうが楽ですが、ずっと二人では寂しいのでいすれパートナーを探すでしょう。結婚制度に

関しては、あんまりリアルに考えたことがありません。姓にこだわりがあるわけではないが、相手が自分の姓になってくれたら嬉しいです。婿養子に入ることには抵抗がありませんね。

●D 私も、正直抵抗がありませんね。

●C 小さい頃から親に、「うちの姓は長男が継ぐから、あなたはどこへでも行っていいよ」と言われています。だから姓が変わることは認識してはいますが、この姓が好きなので、仕事上はこのままでゆきたい。名字を変えてもいいなと思えるような人と出会えた時が結婚なのでしようか。

30代になると、結婚はしたいがボチボチ行こうという気になってきます。今の仕事は好きなので、今のところ結婚によって仕事を辞めることは考えていません。

●D 女性が姓を変えることに、かなり抵抗感があることを、あらためて知りました。結婚制度に対して深く考えたことはありません。ただ、結婚できる相手というのは、

縁でしかない。その時20歳だろうが60歳だろうが、姓が変わるうが結婚したいと思える人にめぐり逢えた時に結婚すればいいと思いません。結婚制度自体は悪くないのではないのでしょうか。スポーツでも何でも、ルールがあります。ルールがあるから面白いのであり、無ければ何でもありになってしまつ。日本社会のルールが苦痛にならないような選択の仕方、自分らしく生きていければよいと思います。

●G 結婚には、ある種の決断が必要だと思えます。友人に、同棲3年



★以前は、子どもを生むために結婚するような面もありましたが…。

●F 最初は、実家でも職場でも子どものことをずいぶん言われました。何で他人に、ここまで言われるんだらうと思つて、よく言われました。言つて側は、挨拶程度の軽い気持ちなのでしょう。最初はストリートに受け取ってしまい、いちいち気にしていたのですが、次第に耐性ができてきました(笑)。

●E 私たちの世代では、結婚と子どもを作る事は体化して、できないうちからつきたのかとつたので

で結婚した人がいます。周りから言われ続け、世間体を気にしていたようです。

●H 親からは、「はじめをつける」とよく言われました。「結婚」もはじめのつけ方だと思えます。

★既婚者の方々は、生まれ変わっても結婚なさいますか？

●A しますね。今の生活が楽しく、充実しているので。

●F 多分すると思えます。自分と価値観の違う、話の通じにくい相

少子化と家族・・・育てにくいのは確かか？

した。子どもを作るかどうかは、基本的に当事者の問題だと思えます。

●C 子どもは欲しいです。子どもができれば、自分の仕事や趣味よりも、子どものことをもっと見たいと思つたようになるかもしれない。夫が協力してくれるのなら子育てと仕事を両立させますが、無理な場合は、納得したうえで仕事を辞めるかもしれません。

●H 子どもは欲しくありません。欲しいと言え人は強い人だと思えますね。

●G 子どもが欲しくないと思つたことを、恥ずかしいと思つた必要はない



手が家にいるって、うつつしいこともあるけど、面白いですね。親子ようだいももちろん価値観が違う

けれど、血がつながっていないのに一緒に暮らせて、こんなにも違つた感じが面白い。

●E いろいろあるのですが、楽しい。子育てをめぐって意見がくい違つてもありますが、そうしたこと自分自身が変わっていくんですね。楽しくしていくというのが、我慢も含めて2人の努力じゃないかな。結婚生活には、その中でしか学びえない、人間的なものを見つめる楽しみがあります。

●B いい人がいて、縁があればまたしますね。いなければ、しません。

いですよ。ただし、パートナーとの関係が変わってくることはあるでしょう。

●H パートナーに欲しいと言われたらどうしようか。いまは、変わる自分が想像できません。

●D 少子化の原因は、育てにくい環境だからだと思います。しかし昔は育てやすかったのかどうか。今より豊かとはいえないので、やはり社会制度に主たる原因があると思えます。

●E 妊娠は、親が見ているても非常にハンディキャップになります。自分の娘がそうなるって、初めてその大

変さを感じました。現役時代は、すべて妻に任せてましたから、今でも恨み言を言われます。

●B そりゃ大変ですよ。働きたかつたのに、見てもらえる人がいないから泣く泣く退職する人は、少なくありません。子育ては24時間態勢。しかも「いい親」でいなければなりません。大変なストレスやプレッシャーになりますね。

●E 私の場合、たまたま両親と一緒で、サポートをしてくれました。核家族だと、そうはいきません。虐待などは、誰かのサポートがあれば起きないかもしれませんがね。

●B 生む理由には、愛する対象が

欲しいというのがありますね。結婚はしたくないけれど、子どもは欲しいという人がいます。誰かに何かを与えたいという感じ。愛情を注ぐ相手がいることで、安心したり、何かをやり遂げられたりするのだと思います。先が見えない不安から、作らない人たちもいると思います。自分の子どもが大学生の時に世の中どうなっているか。教育費がいくらかかるか、全く見積もれません。

●A 恥ずかしい話ですが、私はほとんど子育てに関与しませんでした。親と同居していますが、結婚してからの4、5年、土日に家にいる



★他者と関わりを持ちたがらない若者の生き方のひとつ、ニートのことをどう思いますか？

ニート

(NEET: Not in Employment, Education or Training)

●G 「ニート」は、めんどくさいかじではないでしょうか。私も昔は内気な少年でしたが、先輩に青年団に無理やり引っ張られ、いつのまに

のは、月1、2回くらい。親は「最初

は二人で暮らしてみたら」と言ったのですが、妻は、「二人の生活は不安だから、むしろ同居の方がいい」と。しかし、子どもが生まれてからは、子どもを間に両親との生活が充実していききました。自分たちが子育てにプレッシャーやストレスを感じずに済んだのは、そういうところがあつたからだと思います。

★他者との共生の最もポピュラーな形としての家族とは何なのでしょ

●A 自分のためだけに働くのはどこかでくじけそうな気がする。家

ニートという生き方・・・

悪者扱いはしたくない？

が自分の居場所ができ、コミュニケーション能力が身につきました。おかげで、若いうちの苦労は買ってでもしろというところが、肌でわかりました。

●H 私の悪い口癖は、「めんどくさい」「なにをどうしろ」「なに」「だ」から、ニートの人たちの気持ちは、わかるような気がします。私は、毎日仕事をしています。これは社会人としての義務だと思っからです。

族に、どこかで頼ってもらっている

ことが、頑張るエネルギー、支えになります。

●E 確かに、自分のためだけだったら、どうでもよくなることがある。家族がいることが、励みや安堵感につながりますね。ただし、それが負担になる人もいるとは思いますが。

●F 私は、自分のために働いています。友人からは、「パートナーが働いているのだから、ゆつくりすれば」などと言われますが、それでも、働きたい。家族のために働くのも素敵だけど、働く理由はほかにもありえますね。

●B 大切な人の存在がエネルギー

●G ニートのこと、わからなくはないです。若い時から苦労しようという人間と、めんどくさいことはしたくないという人間は、人生の最初の扉をどう開くかで違ってくるのではないのでしょうか。

●D 個人的には賛同はできませんが、ニートが悪いと決め付けるのは極論すぎると思います。彼らも、何かやっている。それが何であって、そこから違った発想で何かを生み出しているかもしれないですよ。

になれば、それは、自分のためにも

なります。私も、彼がいるからパワーが生まれる。仕事の経験も共有でき、楽しい時間を共有したいから働く。それにしても、家族であれば友人であれ、その存在が、どうしてパワーになるんでしょうね。

●A 私の家は4世代で6人、濃密な家族です。家庭は社会を構成する番小さな単位で、家庭が壊れば社会も壊れる。いい社会を作るためには、いい家庭を作らなくてはいけないと思います。家庭でのしつけは親だけではなく、祖父母などから学んでいくことも多くありますね。

●C なりたくてなっているわけではないでしょう。いい状態とは思いませんが、悪いことでもない。何もしないで、何も考えないでいるのは、むしろ、もったいない生き方だと思えます。押し付けられるのはなく、自分からやってみようという気にさせることが大切ではないでしょうか。親がもっと突き放すことができたら、子どもたちは強くなれるのにも感じます。

★そのニートを生み出す社会というのって

- C 社会全体が冷たくなり、感動することが少なくなっている。何か押し付けられて生きていくようなところが、原因かと思います。
- E 晩婚化やニートというのは社会全体にゆとりがなく不安が増大していること、関係があると思う。それらがなくなれば、解消される面もあるのでは。
- A ニートは、パラサイトとも関連しているのでは？バブル期に夢や目標を持たずに職に就いた人が、その後、転職しようとして辞め、職が無くてニートになっているケースも



★共生といえは、地域とのかかわりもあります。

- E 地域社会の事は、高度成長期には見過ごされてきた部分。退職までは、私も近所の人の名前と顔が一致しなかった。地域は、いわば社会の核なのに、それが上手くないってない。今の日本は、人間を犠牲にして成り立っている社会です。家族や夫婦の生活を犠牲にしている。スペイン人で客員教授をしている

あります。就職が厳しい時にしっかりと就職した人は、そうではないと思います。

- B ニートには、働きたくても働けない人と、自主的になる人がいます。働かなくても生活できる人の場合は、親のゆとりのせい、とも取れませんが。
- F ゆとりの問題は大きいと思います。今の若い人の中には、自分が何をやりたいのか、全くわかっていない人が多い。新卒の場合には違います。中途採用の場合、ほとんどが経験を求められます。新卒でも私が就職した頃は、電話の取り方もパソコンも丁寧に教えてもらえたのに、今は即戦力が求められる

そして他者との共生・・・わかりあえる喜び

ている。会社に人を育てる余裕がありません。失敗しながら仕事の楽しさを見つけていけないのは、気の毒ですね。

- G 厳しくもあり、甘くもある社会。派遣社員で会社の人件費を押さえ、その分、正社員に多くのプレッシャーがかかる。しかし、自分が一歩踏み出せば、道は開けるのではないのでしょうか。社会にも責任はありますが、自分が動かないことには何も始まらないでしょう。
- C 同じ年代でも、見て見ぬふりの人もいるし、後ろから突き落とすような人もいる。全体としては、背中を押して育てようとする人は少なくなっていますね。



ると思います。ピンポイント的に晩婚化や少子化だけを問題にしても、その根幹となる社会を抜本的に修正しなければ・・・

- E とにかくゆとりがない。個人の勉強や研鑽も、ゆとりがないとできない。経済優先オンリーだから、社会が活力を失っていくのでしよう。

★他者とともに生きるための知恵や喜びを教えてください。

- C 地域社会で、他者と関わりを持って生きる、そして関わりを持つた相手が喜んでくれることが、他者と生きる喜びでしょう。先日も中体連の試合で教え子が負けてすごく悔しそうにしていた時、「ありがとございました」と言われて、「やっよかった」と感じました。パートナーとしての他者とうまくやっていくためには、この人のこんなところがいいなあ、見習っていきないなあ、こんなところは直してい

たいといったことを考えあえば、うまく付き合えるのではないでしようか。

●H 自分の意見を整理して相手に話すことから、相互理解が生まれます。これが、他者と生きる喜びであり、知恵だと思えます。そのためには、自分が心を開いて話し合うことが大切でしょう。相手が一人だとその人が重荷を背負ってしまうので、パートナーのほかに、友達も必要ですね。

●G 相手を楽しませることが大事だと思います。私は男女問わず、さ



★では最後に、若い世代に伝えたいことを。

●B 結婚のことも、晩婚化も少子化も一トも、すべて根元はつながっています。ある講演で聞いたことですが、大切なのはGNPではなく、「GHP」だと。「H」は、HAPPYのH。現役世代の人が楽しくイキイキしていると、次世代の人も明るい未来を予感する。確約されなくても、この先いいことがあるのではないかと、動き出すという話でした。子育てなども、社会システムとして整備されていけば、結婚す



●D 相手が好きなことを自分も好むと話すことがよくある。対話が弾むと、違う考え方が理解でき、面白いと感じる。そして、前向きに考えて失敗をチャンスだと思い、次に生かすこと。発想の切り替えです。夫婦だって、仲が悪ければ会話がないうしよ。また、外に出て他者と話すことによって、自分だけでは解決しなかったことも、誰かが答えを見つけてくれる。逆に、相談に乗ってあげたり聞いてあげたりすることが楽しくもなり、生きる喜びにもなると思います。

次世代へのメッセージ・・・

社会をみつめ共生の知恵を

る気にもなる。子どもができたなら、それはそれで面白いかもしれないと思えば、自然と作りたくなるのではないかと思っています。

●E 若い人が、度立ち止まり日本の置かれている状況を考えることも必要でしょう。違う世界を見ることによつて、今自分が置かれている立場や方向性が見えてくる。そして政治にもっと関心を持つこと。いろいろな社会悪は、ほとんどが政治から出てきているようなものです。他の国でできて、経済大国の日本でできないことがあるのは、そこに、何かカラクリがあるからでし

●F 本当に、いろんなことは全てつながっているのです。そして、国の政策も重要ですが、じゃあ自分は何かできるのかを考えることも大事だと思えます。先のことや灰色で不安になつても、何か楽しさを見つげられるかもしれない。今の自分はどんなだろうと、常に考えていきたいです。

きと思えたり、自分が好きなことを相手も好きと思ってくれたり、お互いに共感できるものがある。見つければ、うまくいくのではないでしようか。本音で話し合える友だちは、死ぬまで大切にしたいですね。そして結婚したら、互いに本音で語れる生活環境を作りたい。また、共通の知り合いを作り、周りの友人も巻き込んでうまくやっています。



● A よく「後継者がいない」といわれる方がいます。しかし「大変だ。やらんほうがい」なんてこともすりこんでおろし、「継ぐべくな」はないでしょう。同じように母親が、子どもの前で父親を誹謗したりするのもしよくない。みんなで認め合って生きていきたい。毎日、ご飯を作ってくれる人がいる。風呂掃除をしてくれる人がいる。それに気付いた時に「ありがと」と声をかけることは、人が共生していく基本的な知恵というか、ルールだと思えます。なお、政治が悪いとしたら、それは国民のレベルが落ちているからです。一人ひとりが、国政や県政を深く考えるようになれば、そ

最後までお読みいただきありがとうございます

れなりの行動が出てくるのではないかと思います。



これは

あなた自身を考えていただくための
ひとつの材料です

続きは

パートナーや友人と
話し合ってみてください

「男女共同参画」とは

人それぞれの個性を大切にしてい
く生き方の道しるべのひとつです